

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【英語】

1. 対象 1年生

英語の授業において、積極的に学習に取り組むことができるクラスである。小学校の段階で英語によるコミュニケーションの基礎が養われているため、特に話すことにおいて、リアクションや追加の質問、追加の文を加えようとする姿が多く見られ、英語による発話を楽しみながらコミュニケーション活動に取り組んでいる。4月からの英語学習においては、小学校での4年間の外国語学習を生かすためにも、聞くことや話すこと(発表・やり取り)の指導に重点を置いてきた。今後は読むことや書くことについての重点的な指導も含め、4技能5領域のバランスを取りながら、生徒の英語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成していきたい。

2. 単元名 「部活動や自分が取り組んでいるスポーツについて伝え合おう」(全12時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	疑問詞whereやwhen, I want to..., How many...?の特徴や決まりを理解している。部活動やスポーツについて、疑問詞whereやwhen, I want to..., How many...?を用いた文の理解をもとに、たずねたり答えたりする技能を身につけている。
②思考・判断・表現	ALTの先生のことを知ったり、自分のことをより知ったりしてもらうために、部活動やスポーツについて、簡単な語句や文を用いて即興でたずねたり答えたりしている。
③主体的に学習に取り組む態度	ALTの先生のことを知ったり、自分のことをより知ったりしてもらうために、部活動やスポーツについて、簡単な語句や文を用いて即興でたずねたり答えたりしようとしている。

4. 本時の目標

相手の状況を疑問詞whereやwhen, How many...?などを使ってたずねたり、want to...を使って伝えたりして、事実や自分の考え、気持ちなどを整理して伝え合っている。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い

週末の部活動の計画について伝え合おう。

考えるための材料	
材料A	材料B
ミッションカード(2種類)	タブレット型端末(情報共有アプリ)
想定される活動	想定される活動
自分の週末の予定を伝える。 相手の週末の予定(内容、場所、時)をたずねる。 伝えたい内容や伝えるための困難さについて、話し合いを通して、問いを協働的に解決する活動を行う。	個人の問題(伝えたいフレーズや伝えるための困難さ)を同じミッションカードを持っているグループと共有し、解決を図る。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

同じ状況(同じミッションカード)の生徒を3人編成の1グループに分け、10分間のやり取りの中で生まれた困難さ(問い)や伝えたいフレーズを共有させ、解決をする。また、この協働的な問題解決のプロセスは2回反復して行う。

「練習の場所を聞くときは、whereが使えたよね。」

「テニスの練習があるってどう伝えるんだったかなあ。」

「テニスをしたいはwant to…を使える！」

「参加できますか？って何て言うのかな。」

生徒 : Hi, I have a tennis game.

ALT : Really? When is the tennis game? I want to watch it.

生徒 : It's on July 16. And I practice tennis on Saturday.

ALT : I want to play tennis, too. Can I play with you?

生徒 : Sure. Let's play tennis.

ALT : Thank you. What do you bring to practice?

生徒 : I bring my rackets, balls, towels, and water bottles.

ALT : I don't have my rackets. How many rackets do you have?

生徒 : I have 4 rackets. You can use them.

(観察)【知識・技能】

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

・本単元で学習した表現や今までの既習事項を活用して、伝えるべき内容を整理し、適切に相手に伝えることができる。

・本単元の学習の振り返りをして、足りない部分やできた部分について考えることができる。

・「自分のことを言うときは？」と、次の授業を見通し、自分に置き換えて考えることができる。